

第15回 日本在宅医学会大会 プログラム別 詳細情報

カテゴリー	シンポジウム
タイトル	「食」を支援する多職種連携
日 時	平成 25 年 3 月 31 日 9:00～12:00
会 場	真珠の間B
演 者	山梨市立牧丘病院整形外科・古屋聡先生、気仙沼巡回療養支援隊、気仙沼口腔ケア・摂食嚥下・コミュニケーションサポート 一瀬浩隆先生、在宅栄養支援の和・愛知 奥村圭子先生、京滋 摂食・嚥下を考える会・荒金英樹先生、新宿食支援研究会・五島朋幸先生、地域栄養ケア PEACH 厚木・江頭文江先生
企画趣旨	<p>近年「食をめぐる多職種連携」は各地でその花を開き、日本摂食・嚥下リハビリテーション学会などでも、あちこちの地域のさまざまな発表がされるようになってきた。しかしながら、日本国内でも「食支援」がさかんな地域とそうでない地域、地域内でもよく取り組む施設とそうでない施設、施設内でも熱心な職員とそうでない職員、の差がはげしいことも知られている。</p> <p>職種間の問題でいえば、この動きにもっとも乗り遅れているのは、医師集団である。乗り遅れているどころか、医師の無知とパターンリズムにより、人の当然の権利である「食」を阻害しているケースすら散見する。</p> <p>「在宅医療の発展」は、医療を生活に引き寄せ、多職種協働を通じて、職種間ヒエラルキーの打破・医療の民主化にも寄与してきた。人間の生活の根本は「食って出す」ことであるので、本学会がこの問題をメインに据えないわけではないのであって、「食支援」こそ、本人・家族をふくめて多職種協働がもっとも必要とされ、また有用な分野であるといえる。</p> <p>今回のシンポジウムでは、百花繚乱のなかでも全国のトップランナーといえる地域・取り組みのかたがたに集まってもらい、「食支援の現況とその可能性」について思いっきり語ってもらう。そして、参加者各人が、その知見や感動、さらには疑問や悩みを自らのこととして、地域や施設にもちかえり、患者本人とご家族・周りの職種とともに独創性をもって取り組んでいただき、さらに来年以降には、発表が相次いで、このセッションが在宅医学会のメインプログラムになっていくことを目指す。</p>